

当金が過年度に対し大幅に増加したことによるものです。

Q 2期連続の赤字決算となり、JA事業運営が相当厳しかった状況がわかる。赤字の要因となつた貸倒引当金の増加については、今後も積み増す可能性があるため、さらなる収益確保、費用圧縮に取り組む必要がある。財務基盤整備強化積立金を取り崩さないよう、令和6年度は事業利益確保に取り組んで欲しい。

A 令和5年度の事業利益赤字を受け、JAと県連が一体となつた経営改善を進めていくことになりました。令和6年度事業計画の達成へ向け、各部門において収支改善に取り組みます。

Q 前年の出資配当率は1.0%だったが、今回の決算状況からすると配当率0.5%でもありがたく思う。どの様な理由で0.5%の配当としたのか教えてほしい。

A 令和5年度は当期損失金を計上していますが、貸倒引当金の大幅な増加がなければ、

4千万円以上の当期剰余金を計上していたと想定されるため、組合員還元を行う提案となりました。

Q 任意積立金を取り崩してまで損失処理をする必要があるのか。

A 定款において、事業年度末に損失金がある場合には、任意積立金、利益準備金、資本準備金の順に取り崩してその填補に充てるものと規定されています。

Q 出資口数の上限を引き上げるのはなぜか。

A 組合員資本充実計画に基づき、増資のお願いをしています。増資の上限口数に達する組合員も増えていきます。また昨年の座談会において、上限の引き上げを検討してほしいとの要望もあり今回の提案となりました。

Q 石堂澱粉工場跡地の賃貸契約延長の予定があるのか。

A 馬毛島自衛隊基地建設の工期延長に伴い、賃貸借契約の延長の可能性ががあります。

Q 石堂澱粉工場跡地の購入希望がある場合、売却等は考えられるか。

A JAとして有効活用していく構想があり、現時点では売却の考えはありません。

Q 一般職員と技術職員の給与は違うのか。

A 給与における賃金の違いは資格手当等であり、技術職には必要とする様々な資格があるため、資格を取得することで手当が付されます。

Q 座談会の開催は、もう少し早い時間にしてほしい。

A 座談会の開催時間については、多くの組合員が出席できるように、今回の出席率も踏まえ検討致します。

Q JA職員の人員確保についてどのような取組みをしているのか。

A 取り組みとしては、地元高校就職担当者との情報交換やJA合同事業説明会への参加、農業大学校就業相談会での学生との面談等を実施しています。また、就職情報サイトの運用や、情報誌への掲載を行い県内外へ広く情報発信しています。その情報誌への掲載を行い県内外へ

広く情報発信しています。その他にも職員紹介制度を導入し令和5年9月より運用を始め、9人の職員確保に繋がりました。

Q 職員の状況について、一般職員と臨時職員の人数構成がほぼ同じだが、一般職員を増やすことはしないのか。

A 一般職員の確保に向け、新採用・中途採用それぞれ募集していますが、近年は殆ど応募が無い状況で、職員数は一般職と臨時職で同割合となっています。

Q 県内1JA構想の進捗状況を教えてほしい。

A 第27回JA鹿児島県大会（令和3年11月開催）の中で、個々のJAにおける持続可能な経営基盤の確立を最優先に各施策に取り組むことを決定しております。また一方では、JA代表者会議の中で各施策の進捗状況や社会情勢等を踏まえ組織構想を議論する仕組みを設置しており、直近の会議においては、引き続き個々のJAにおいて経営基盤の強化に取り組むことを決定しております。

